

三井住友海上火災保険株式会社

広報部 〒101-8011 東京都千代田区神田駿河台 3-9
TEL: 03-3259-3111(代表)
www.ms-ins.com

2015年11月10日

三井住友海上福祉財団、設立40周年記念式典の開催について

MS&ADインシュアランスグループの公益財団法人 三井住友海上福祉財団（理事長：植村 裕之）は、今年9月に設立40周年を迎えたことを記念し、11月17日に記念式典を開催します。本式典では、当財団が過去10年間に助成した研究の中から、さらなる発展を遂げた研究成果について特別賞（副賞各100万円）を授与します。

また、例年実施している助成金贈呈式も同時開催し、「交通安全等」「高齢者福祉」の2部門で総額3,333万円を助成します。あわせて、海外（シンガポール、タイ）における研究助成として、応募件数30件のうち8件に対して助成を決定しました。

これにより、2015年度の研究助成は、応募総数225件中41件、総額3,732万円となり、当財団設立以来の助成実績は、累計で1,923件、22億5,029万円に達しました。

1. 設立40周年記念式典および2015年度贈呈式の概要

- 開催日時：2015年11月17日（火） 13:30～16:30
- 開催場所：住友会館（港区六本木1-6-1 泉ガーデンタワー42階）
- 出席者：40周年記念特別賞受賞者、平成27年度研究助成対象者
内閣府、選考委員、他財団、当財団役員・評議員
MS&ADインシュアランスグループ役員等 合計 約100名
- 記念講演：設立40周年記念特別賞受賞者による講演
 - (1)「ボランティアによる交通安全教育と子どもの行動変容」
一般財団法人 日本自動車研究所 安全研究部 主任研究員 大谷 亮
 - (2)「男性ホルモンと老年病」
東京大学大学院 医学系研究科 加齢医学 教授 秋下 雅弘
 - (3)「在宅療養高齢者の生命予後ならびに在宅療養の継続性に与える様々な因子に関する研究」
名古屋大学大学院 医学系研究科 地域在宅医療学・老年科学 教授 葛谷 雅文
 - (4)「高齢者の転倒予防に関する基礎研究～筋の量から質へ、動きから動きを司る神経システムへ～」
京都大学大学院 人間・環境学研究科 認知・行動科学講座 教授 神崎 素樹

2. 2015年度国内研究助成

- (1) 交通安全等部門 <全8件>
 - 「脳損傷者の自動車運転時の注視行動の特性研究」
聖隷クリストファー大学 リハビリテーション学部 作業療法学科 助教 建木 健 他7件
- (2) 高齢者福祉部門 <全25件>
 - 「健常高齢者の長期縦断疫学研究（Nagoya Longitudinal Study for Healthy Elderly: NLS-HE）」
名古屋学芸大学 管理栄養学部 教授 岡田 希和子 他24件

3. その他

優れた著作・論文を表彰する「三井住友海上福祉財団賞」は、今年度は該当がありませんでした。

以上

添付別紙：三井住友海上福祉財団の概要

三井住友海上福祉財団の概要

事務所	〒101-8011 東京都千代田区神田駿河台3-9
設立	1975年9月1日に住友海上福祉財団として発足 2001年10月1日三井住友海上福祉財団と改称
主務官庁	内閣府
理事長	植村 裕之
基本財産	14億4,633万円（2015年3月31日現在）
沿革	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1975年9月に住友海上社の創業80周年を記念して設立されました。 ・ 財団設立以来、「交通安全等」と「高齢者福祉」両分野への助成累計は、1,923件、22億5,029万円となります。 ・ 設立当初は、損害保険に関係の深い交通遺児や防災活動で殉職した消防士の遺族等への援護活動が中心でしたが、1980年代からは、交通安全の普及啓発活動への助成に重点を置くようになりました。 ・ さらに、わが国の高齢化の進展に合わせ、1991年からは高齢者福祉分野へ助成対象を拡大しました。時代の変化にともなって事業領域を拡げ、現在は、「交通安全等」と「高齢者福祉」分野の研究助成、施設助成、著作・論文表彰などの多岐にわたる活動を行っています。 ・ 2007年度から海外における研究者を対象とした研究助成を開始しました。対象地域は、シンガポール、タイの2ヶ国で、2015年度は8件、約499万円（※）の助成を決定しました。 ※助成金額は、暫定為替レートで計算しています。 ・ 新公益法人制度の下、2009年12月1日に「公益財団法人 三井住友海上福祉財団」に移行しました。 ・ 分野別では、近年、「高齢者福祉」が助成事業全体の約7割を占めています。

以上